OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	教育学年報 第25号　原稿執筆要領
Author(s)	
Citation	大阪大学教育学年報. 2020, 25, p. 63-66
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/73996
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

2019年７月１日

『大阪大学教育学年報』第25号　原稿執筆要領

大阪大学大学院人間科学研究科・教育学系

Ⅰ．記事種別および原稿量の目安

⑴ 記事種別は，「研究論文」「研究ノート」「書評」「翻訳」とする．

⑵ それぞれの記事種別における原稿量の上限

研究論文　……20000字（400字換算50枚）以内
研究ノート　……12000字（400字換算30枚）以内
書評　……8000字（400字換算20枚）以内
翻訳　……20000字（400字換算50枚）以内

• 指定の原稿量には，図表のスペースも含まれるので，適宜換算すること．

Ⅱ．執筆資格

教育学系の博士前期・後期課程在学者および教員が，第一執筆者となることができる．

注１）博士前期・後期課程に在学し，引き続き「大学院研究生」または「日本学術振興会特別研究員」となっている者も含まれる．

注２）博士前期・後期課程在学者および上記１）に含まれる者は，研究指導教員と提出について事前に相談をしておくこと．

注３）募集年度に半年を超えて休学期間のある者は，第一執筆者としての申し込みはできない．

注４）共同執筆者は，博士前期・後期課程休学者，他系，学外者も可．

注５）第一執筆者となることができるのは，一人につき１本まで．

注６）教職科目担当の非常勤講師は，特例として第一執筆者となることができる．

注７）その他執筆資格については，申込を受け付けた時点で編集担当が審査することがある．

Ⅲ．文字・言語

⑴ プリンター（ワープロ）で印字すること．

⑵ 横書きとする．

⑶ 原則として日本語により執筆する．英語による執筆を希望する者があれば，申込時に編集担当により審査を行う．

Ⅳ．用紙

⑴ A4上質紙を使用すること．

⑵ 図表はA4上質紙に印字・貼付・記載すること．

Ⅴ．本文の書き方

(1) A4用紙に全角47字×46行で印字すること．
(2) 数字・欧文は，原則として半角（1マスに2文字）とする．
(3) 欧文の行末の分綴は，辞書で音節を確認して使用すること．
(4) 句読点，語学記号（，．・：；？！），括弧，その他の記号（%，＄）等は，原則として全角（1マスに1文字）とする．ただし，欧文の引用等においては半角とする．
(5) 教育学系事務室に過去の『大阪大学教育学年報』が保管されている．また、大阪大学学術情報庫 OUKA（Osaka University Knowledge Archive）にもアップされている．必要に応じて参照すること．

Ⅵ．本文以外の部分の書き方

1．注

注（引用文献は除く）は，文中の該当個所に（1），（2）…と表記し，各章末尾にまとめて記載すること．書き方は本文に準ずる．

2．引用文献

(1) 引用する文献については，文献一覧表を論文の末尾にまとめる．
(2) 本文中では次の例のように，著者名（出版年），あるいは（著者名，出版年）の形で表記する．引用箇所を明示する必要があるときは，その頁も書き込むこと．

［例］源（1992）の説によると，現代の家族は….
…が問題だという指摘がある（源 1992，46頁）．
キャリーの提示した枠組みを用いて（Carry 1988，pp.25-29），….

(3) 同一著者の同一年の文献については，出版年の後ろにa, b, c …をつけて区別する．

［例］秋本（1991a）の研究によると，….

(4) 原文の引用には必ず「　」をつける．また，引用した部分が文献のどの頁からのものかを必ず付記すること．

［例］今日の有力な見解は，「子どもに自己決定権が認められるかどうかは事実上の判断能力に依存する」（円谷 1993，272頁）というものである．
［例］ヤングは，「家庭は依然としてもっとも肥沃な苗床なのである」（Young 訳書 1982，27頁）と述べている．

(5) 数行にわたる長い引用を行うときは，引用部分の上下1行及び行頭・行末の1文字（全角）をあけて記載し，原文の引用であることを明確にする．
(6) 文献の参照を示す場合も引用と同じ表記を用いる．また，複数の文献を列記するときは，邦文，欧文を含めてアルファベット順とする．

［例］…とする調査結果が数多くだされている（秋本 1991b，Andersen 1987，Goleman 1990）．

3．引用文献一覧における文献の提示方法

(1) 書き方は本文に準ずる．
(2) 記載順序は，邦文，欧文を含めてアルファベット順とする．
(3) 邦文の論文題目には「　」を付け，書名または雑誌名には『　』を付ける．雑誌の巻・号数は雑誌名の

後に付ける．

(4) 欧文の論文題目には，“　”を付け，書名または雑誌名にはアンダーラインを付ける．雑誌のVol., No.は，雑誌名の後に付ける．

(5) 雑誌，共著書等の場合，当該論文の該当ページを必ず記すこと．

(6) その他，提示方法については，次の例に従う．

［例］秋本ふみ　1991a 「家族理論のメタファー」『季刊　教育人間学』14，25-39頁．

秋本ふみ　1991b 「発達研究の実験的方法」『シミュレーション』No.21，1-15頁．

Andersen, R. M. 1987 “Power-Dependence Relations in School”, European Behavioral Research, Vol.22, pp.31-41.

Carry, B. 1988 “Educational Opportunity and Moral Arbitrariness”, in Social Policy at Hazard, ed. by N. E. Rowie, Academic Press, pp.23-44.

Goleman, J. S. 1990 Parents and Their Children. Eastview Press.

源　洋平　1992 『現代家族の起源』森書房．

円谷　裕　1993 「教室のなかの戦後」羽島隆編『都市と大衆』弘法館，263-290頁．

Young, Michael 1958，窪田鎮夫・山本卯一郎訳『メリトクラシー』至誠堂 1982.

4．図表等

(1) 図表等は，本文の該当個所に挿入するか，挿入個所を欄外に指示すること．挿入箇所を指示する場合，本文中の図表の挿入に必要なスペースを空白にすること。

(2) 図と表それぞれに通し番号を付けること．

Ⅶ. 論文の構成について

1．論文の構成と留意点（過去の『教育学年報』も参照のこと）

構成内容	留意点
表題	• 内容が明確に分かるようにすること． • 副題の前後には，―（全角ハイフン）をつける．
執筆者氏名	• **第一執筆者のうち，博士前期課程在学者は指導教員名も併記すること．**
和文要旨	• 400～500字．（「書評」では不要）
本文	• 引用の示し方は「Ⅵ-2」参照．
注	• 文中の該当個所に，1) 2) または (1) (2) と番号を記しておき，本文の後にまとめて記載する．引用文献は除く
引用文献	• 引用文献一覧．「Ⅵ-3」参照．
英文表題	• 「引用文献」までとは頁をかえて作成すること． • 副題の前後には，-（半角ハイフン）をつける．
英文氏名	• 「姓」「名」の順に表記すること．
英文要旨	• 200～300語．（「書評」「翻訳」では不要） • 英語を母語とする人に添削してもらうなどして，適切な要旨を作成すること．

2．本文の構成

本文の構成にあたっては，論旨が順序よく展開されているように配慮すること．その場合，研究の意図，

目的，方法，結論を明確にすることが大切である．また，先行研究の成果，論争点を的確に把握することにより，各自の問題意識を際立たせながら，考察・論証を進めること．章の立て方は，論旨の展開が明瞭に表現されるよう心がけること．

Ⅷ．論文の体裁および提出

１．原稿量

それぞれの記事種別における原稿量の上限を厳守すること．

２．原稿提出票

論文提出の際には，「角２封筒」に次の（1）・（2）を入れて提出すること．また，申込時に配布する「原稿提出票」に必要事項を記入し，封筒に添付すること．

（1）A4用紙に全角47字×46行で，できあがりをイメージして図表を含め印字したもの（２部）

※１頁目には論文タイトル・氏名・和文要旨を挿入し，それ以外の本文は47字×25行とする．

※図表は適切な箇所に適宜貼り込み，各頁に通し番号をうつ．

（2）「Ⅶ-1」における原稿の「構成内容」（図表データ含む）を保存したCD-R, USBメモリー（後日返却する）．

※原稿の書式が失われない形式で保存する．

※作図ソフト等を利用して作成した図表や写真データ等は別ファイルで保存する．

※英文表題・英文氏名・英文要旨は，一括して本文とは別ファイルで保存する．

Ⅸ．原稿の提出締切・閲読・校正

（1）原稿締切と提出先

2020年11月６日（金）午後４時　→　教育学系事務室

※　提出期限を過ぎたものは一切受理しない．

（2）提出された原稿は，教育学系教員による閲読を経て掲載の可否を決定する．また編集担当から改稿，再提出を求めることがある．なお，掲載が決定した論稿は，主たる指導教員の閲読を経ているが，ピアレビューを経た査読付きのものではない。

（3）掲載が決定した後，執筆者による責任校正を**１度だけ**行う．このとき**誤字・脱字の訂正以外は認められないので，必ず完成原稿を提出すること**．

（4）申込書，執筆要領，原稿提出票は，教育学系事務室にて配布する．不明な点は編集担当に問い合わせること．

第25号編集担当：佐々木・原田・西